

**(議長)**

次に政策推進課所管の予算及び関連議案について補足説明を求めます。

「政策推進課長」

**「政策推進課長」(補足説明)**

政策推進課にかかる予算について概略を説明させていただきます。

歳出についてです。

予算書38ページから41ページ、予算資料は7ページになりますが、予算書で説明させていただきます。

予算書38ページをお開きください。最初に文書広報費は、広報誌のページ数を毎月平均14ページであったものを、追分記念大会の年であり追分の各種事業関係等の紙面の増加が見込まれることから、2ページ増やし、月平均16ページとするものでございまして、2ページ増よって27万円程度、印刷製本費が増えてございます。

この点が前年度と変わった点でございます。参考までに、文書広報費の予算総額には、総務所管の例規集加除などの予算が含まれておりますので、ご承知下さい。

次に予算書42ページから43ページ、予算資料は7ページをご覧下さい。

予算書6目の企画費ですが、主な内訳をご説明しますと①トヨタ関連企業との取引にかかる訪問協議、中部国際空港物産展、特産品の開発などの食クラスター関連予算、②緑の分権改革調査事業の継続支援、③乗合タクシー運行委託、④開陽丸青少年センター補助、⑤協働のまちづくり補助、⑥特別職の各種要請、陳情などの行動旅費、⑦ふるさと応援基金の積立の大きく7つの事業費にかかる予算であります。

前年度比較で3,802千円の増額となっておりますが、主な理由は、①緑の分権改革調査事業が23年度限りの国の助成でありましたので、24年度の継続支援の予算化として2,005千円を新たに予算計上し、また前年度は商工費に予算計上していたトヨタ関連企業との取引関係や特産品開発の食クラスター事業2,135千円を企画費に移行したための増額が主な理由であります。

最後に予算書50ページを予算試料は9ページになりますが、5目の統計調査費は今年の経済センサス終了による減額予算となったものであります。

続きまして歳入について説明します。

予算書33ページ中段、「ふるさと応援寄付金」は、前年同様、実績額を踏まえ1,000千円の歳入を見込みました。

予算書35ページ、総務費交付金1,000千円、これは昨年も助成を受けたものですが、北海道市町村振興協会からの助成であり「トヨタ関連企業訪問、中

部国際空港での物産展、特産品や商品開発などに伴う食クラスター関連事業」に対して助成を受けるものであります。

以上、政策推進課にかかる主な予算の内容を説明申し上げます。よろしくお願い致します。

**(議長)**

説明が終わりましたので、質疑を許します。

質疑希望ありませんか。

「大門議員」

**「大門議員」**

今のご説明の中で緑の分権が補助金終わりました、町単独で2,005千円ですか。付けてこれからまた引き続き行うという事ですが、このことに関して今までの組織の形とこのお金の流れ、町と分権の方々の付き合いとかタイアップの仕方は従来と変わらないということなんでしょうか。その辺のところ説明をお願いします。

**(議長)**

「政策推進課長」

**「政策推進課長」**

緑の分権の組織の形と言いましたね。端的に言いますと、出来るだけ早期に自立化できるような形で目論んでいるというか、そこに目標を置いている訳ですが、24年度については町直営で事業を継続していくという形になろうかと思えます。ですから24年度の中でなんとか、いわば25年度からでも独立した運営ができるような態勢にもっていくために、24年度は町としても直接的な事業費の予算を見て支援をしていくという形です。

それから団体との関わりでございますけれども、大門議員も知っての通り10名そこそ今いますが、やはり会員の増も図りながら、まだ奥さん方も出だして原価計算含めていろんな面で物を売るとい部分部分が形作られていないことでもございますので、これは厚生労働省のパッケージ事業や実現事業の逆にそちらの支援も頂きながら、24年度は町の政策推進課としてきちんと関わって団体の育成に努めていくという事でございます。

**(議長)**

よろしいですか。

「大門議員」

はい。

(議長)

「小野寺議員」

「小野寺議員」

4つ位になると思います。

まず去年の町長の執行方針で、昨年ですよ。限界集落うんぬんと昨年論議になりましたが、集落支援員の配置を検討して参りたいと。検討という事になっていますけれども、どういう検討になったのかまず1つ教えて頂きたいと思います。

それから2つめ。開陽丸関連ですが。昨日大門議員の一般質問でしたかありました。町長の執行方針で「海の駅」でいいですね。「海の駅」ということで改めて少しイメージ。このイメージというのは法律でも何でもありませんから、いわば町がどういうイメージを具体的に膨らませるかという大事な発信だと思います。それでこの間、論議になっていたのは、去年の開陽丸の論議もありましたけれども、単に開陽丸の管理棟だけでなく、一体の活用も含めた賑わいをとということがいろいろ論議になりました。多分そういう意味合いも含めての「海の駅」だろうと思いますが、もう少し具体的なイメージ。これだけでは分からないので教えて頂きたいと思います。

3つめ。何回もこの間課長とやり取りさせて頂きました、総合交通対策。これは去年も国の法律が改正になって、色々やっけていかなきゃならない。ただ去年はまだ法律改正というか、新しい法律からですね。端的にお伺いしますが、この間私が言ってきた「買い物」、「乗り合いタクシー」、「路線バス」、「教育委員会の通学バス」、それから課題となっている「通院」、例えば道立病院、総合的な部分はここで聞くしかないと思いますので、縦割りじゃなくてですね、基本的にどういう考えでいるのか。全然検討してなかったらしてないでよろしいです。

最後、元山風車。この一年位言わなかったのかもしれませんが。副町長と一昨年、6月議会に一般質問でやり取りさせて頂きまして、私は今あと6年ですかね、いずれにしてもすぐですね。一昨年に要は51%の株主である江差町としてという観点で、一昨年も聞いたのですが、なんてったって収支計画がちゃんとないと、収支計画の無い会社なんてありえないという事です。

そうしましたら副町長は何とか、会社に強く主張していると、答弁がありました。どうなっているのかお聞きしたいと思います。

以上です。

(議長)

「政策推進課長」

「政策推進課長」

一つ目の集落支援員の関係を言います。実は政策推進課内でももちろん、びしっとした何とかの協議を受けました。結論だけ言いますと、国の助成を頂いて、何箇所かの地域に集落支援の配置と、こういう事も実はあった訳ですが、検討の材料としてですね。結論は地域協力員制度の見直しの中でやっていきたい、こういう事です。

現在、執行方針の方にも記載させて頂きましたが、現在作業中でございます。今町内の関係課で今月最後集まって今年度、3月末までにはですね、新しい制度の見直し。関連して昨日の一般質問でもあったように、自主防災組織の云々だとか、色々小野寺議員からもありました。担当課は担当課として防災担当課ある訳ですけども、地域協力員に担わせる部分の守備範囲というか、こういった部分は当然議論していかなきゃない。

それから、時間外の対象にするのかしないのか、公用車を使えるのか使えないのか、色んな部分の整理も含めてですね、業務としてやるのか、ボランティアとしてやるのか、そういう委員の役割の分担も含めて、実は集落支援員の部分でなくて協力員の制度の見直しの中で対応して参る、こういう事です。

それから、開陽丸、「海の駅」のイメージを膨らませるという事ですが、小野寺議員も知っている通り、港オアシスの指定を受けて、そして民間開発都市機構から20,000千円の言わば拠出金。お金を頂く事が出来て、それで「中央商店街」、「法華寺」、「歴まち」、それらも網掛けをしながらこの20,000千円の補助金と、開陽丸の持っている基金を合わせて、この言わば周辺的环境整備という事で、動き出したのがスタートでございます。

それで、この開陽丸の担当に限って言いますと、周辺的环境をどうするかという事の委員会も開陽丸財団として設けた訳ですけども、色んな意見がございました。

ただし、先程言った「民都」の拠出金の残、言わば他の歴まちやそちらで500数十万使いましたので、金額を具体的に言うと1,400数十万と開陽丸の基金の一部を当て込んで、4千数百万と言うのが現在かけられるお金だと。こういう中

で管理棟のリニューアルがまず急がれるべきと、こういう事で事業が動いているという事でございます。

ただし、「海の駅」というものにする部分にあたってはですね、名称については開陽丸青少年センターで変わらない訳ですけども、本体は。

管理棟の部分には、外から名前を見ても、物産館と言う意見もありましたけども、「海の駅」というのはマリーナ、プレジャーボートのある、場所でないと運輸局の許可もちょっと出ないんですけれども、その部分も頂く事が出来る予定でございます。「海の駅」という風に付くと、あそこに行くとか物が売っているとか、食べられるとか、そういったイメージを持った名称にしていくと。こういう考えでございます。

ただあの、話が少し戻りますけども、開陽丸の管理棟をまず今手始めにやる訳ですけども、今後の課題とすれば、周辺の色んなゾーンがある訳ですから、これらの部分は当然検討課題に今後なっていくだろうなと思っております。

それから3つ目の総合交通対策、これは機会あるごとに小野寺議員から質問を受けますけども、24年度は相対のいわば、「乗り合いタクシー」から「路線バス」、「スクールバス」と含めて、相対の部分でどういった効率性だけではないですけども。特にターゲットを絞っているのは「スクールバス」と「路線バス」の部分がちょっと柱になるのかなと思っておりますけれども、24年度中には検証作業を終えたいなと思っております。

そういう年度で24年度動き出して交通対策の委員会も設けておりますので、少し数カ月で事務レベルで整理をした上でこの委員会の方に向けながら、また委員の皆さんが日頃思っている疑問というものを含めて、きちっと公表しながら議論の積み重ねをして検証する年度にあてたいと思っております。

元山風車の方は、副町長お願いします。

(議長)

「副町長」

「副町長」

小野寺議員、収支計画がないという風におっしゃりましたけれども、収支計画はそれぞれの年度の始まる前に、恐らく言っている意味が違うんでないかなと思います。私の場合はキャッシュフローがですね、フラッシュを起こさないという様なことで、そこが一番苦勞している所でありまして、24年度の会社経営の収支計画と言うのは、19日の日に取締役会が開かれる事になっておりまして、そこで示されると思います。23年度もそういう意味での収支計画は当然解

積して思っております。

議員も御承知のとおり、23年度から単価がワンランク下がりましたですね、厳しい状態になっているのですが、それだけに尚、その稼働率の見直しを、いわゆる現実レベルに置き換えまして、たまたま今回は計画よりか多少上目の実績を示しているのですが、そういう現実性のある収支計画をさせていただきます。

問題は、それにしたってもう一回単価が下がる時期が来る訳ですから、今のような状態でそのまま経営が出来るという何の保証も無い訳であります。問題は私共が51%という出資比率の問題だけではなくて、社長の方に申し上げているのは、斐太という創業者責任というのは当然ありますよ。だから今までの全体の中では斐太に対する色んなコンサル料がどうかの話もしていたのですが、それは数年前から辞めさせるという形にいたしました。

そういう事をきちんと果たして頂きながら、町に対する納税責任も可能な範囲で果たして頂くと。そういう事を強く要請してきている所でございます。

従いまして収支計画がないという事ではなくて、収支計画に沿いながらキャッシュ的な意味でクラッシュを起こさないように最大の配慮を払っております。

(議長)

「小野寺議員」

「小野寺議員」

先ず副町長の方から、ごめんなさい。この間の論議ではですね、収支計画というのは、最終的にこの事業が終わるまでの全体の収支計画という、今までだってそういう論議でずっとしてきていたので、単年度の事なんて当然当たり前のお話です。私の言った事は、ごめんなさい。不正確だったのかもしれない。

私のこの間ずっと言ってきた事は、もう当初も要は2019年、というか2018年度、までの計画が何度も出てきて、結局どれ見たってですね、私の言葉で言えば適当な計画。

改めて副町長にお聞きしますが、最終的に黙って2018年度時点で、結局どうなるのか、あの鉄塔の撤去費用等も含めてきちんと最終的に粛々と、あの事業が整理されるのかどうかという事はもう見通しもたなきやいけない。今単年度の収支計画見たってですよ、さっき言った単価が下がっていくというのを含めれば、到底このままでは収支合わないのははっきりしていますよね。

だけど、無いんですよ。我々に示されていないんです。

それを副町長は2年前にも何とかその全体の部分を出させたいと、多分無いと思うのですが、その点改めてですね、最終的にどうなのかという事をどういうやりとりしていらっしゃるのかをお聞きしたいというのが副町長の部分です

ね。

それから開陽丸。今の課長の答弁ですと、町長の執行方針を見ればそうだったのですね。

要はあそこ「海の駅」と名前をあの部分だけでそれに関連した全体の賑わいをという、この間の論議の中で更に発展的な部分で今の所イメージはある訳ではないですね。但し、そういう事も必要だという課長の答弁だったと思うんです。

何回かこの間論議になっていますが、あの管理棟だけの部分的な改修だとかですね、名前を変えるだけではあそこの「鷗島入り口」、「港湾」、「船」も含めて、全体的な賑わいを戻すという事にはならないと思うんです。これはずっと論議になっていますよね。ですから開陽丸管理棟を含めて生かすも殺すもやはり全体の計画をやっていかなかったら、どれだけ海の道をつけたってどうしようもないと思うのです。そこをがっちり港湾計画の見直しをしなきゃならないとありましたけれども、港湾計画の見直しも含めて、あそこ全体の利用をどうやって、高めていくのか、それこそ賑わいを持たせるのかという事を江差町全体の課題としてやっていかなければならないと思う。

管理棟の問題だけではない、という意味合いで改めて再質問します。

**(議長)**

「副町長」

**「副町長」**

全期間、後残りの期間全部含めて、解体撤去費用含めての、例えばそういうものも含めて全体の経営計画がどうなのだと、それは残念ながら今段階で示せる状況ではありません。

はっきり言える事は、今のウィンドパワーだけのその経営状態の中で、撤去費用は確実に生まれてきません。

ただ今はその17年度の契約期間が終了した段階で、果たして発電能力が全く0になるものなのか。例えば一部今、宗谷の方の市町村の副町長さん方はですね、当初風力発電を導入した宗谷の地域とこの江差のウィンドパワーが典型的なのですが、かなりそういう資材のリスクを負いながら先導的な役割を果たしてきた。だから従って今回の風力の買い取り単価についても、新しいものではなくて、それは非常に希望的な要望なのですが。そういうものも含めて、買い取り単価の再生というのが出来ないかと言う要望もしております。その辺の状況もはっきり今段階では見通せる状況ではありません。

そういう事もありまして、残りの期間含めて、あるいは機械設備の整理など

の経費も含めた計画というのは正直に申し上げまして、今段階ではお示し出来る様な状況ではございません。

(議長)

「政策推進課長」

「政策推進課長」

小野寺議員、開陽丸の部分、全体計画きちんと持った中でのその一部が管理棟の改修ではないかという趣旨かなと思っております。

そういった部分について、全体計画を持っているのかという部分に言いますと、今持ち合わせている部分ではございません。

ただ言いたい部分は、先程港オアシス、そして民間都市開発機構からの補助も充てながら、町の財政状況も考えながら、そういった国なり道なり色んな民間のそういう補助を頂きながら、可能な限りやれる範囲で管理棟のリニューアルして、そういった所からスタートすると言う事でございます。勿論今絵を描けるだけの財政状況も含めてですね、そういった絵にもしたくない訳でございますので、これからの検討課題としては管理棟に済まらず、周辺全体の人間がどう図れるかというものはですね、この管理棟のリニューアル後の部分も含めてやはり色んな形で政策段階でも議論する必要があると思っております。

(議長)

「小野寺議員」

「小野寺議員」

課長の方から、検討して参りたいとかですね、これから進めて参りたいというのわかりますけれども、せつかく「政策推進課」として言わば皆さん方、江差町の本当に中心的な政策、協議して相談して色々お金も持ってきて、そして実行に向けてという、一番江差町の中心的な役割を担っていると思います。

それでこの間論議になっている、結局縦割り縦割り、「観光の側面」、「港湾の側面」、たまたま民都からお金を来たからという事で終わっちゃならないと思うんです。

私はこの一年間かけて、港湾の見直しきつと今年一年間かけなきゃならないですよ、時期的に。それも走ると。それからこの間公等も含めて、観光の問題がずっと論議になってきている。本当に政策推進課、言わば全町あげて開陽丸だけではない、鷗島入り口全体の方向性をしっかりとやって行くんだと。そういう決意を町長、この一年間かけてやるという御返事頂きたいんですよ。

それから副町長、つまり大変な状況だというのはわかりましたがもう一つ。斐太工務店、あそこがもし万が一、倒産したとかという部分については、大変な事になると思うんです。江差町は51%です。社長ではありません。じゃあ商法上、民法上って私は専門的ではありませんので、そこまでは論議できる能力はありません。

それにしたって、斐太工務店が社長で事実上経営の主体的になっているという斐太工務店の今会社がどうなのか、あくまでもウィンドパワーですから。斐太工務店は直接的には別な会社ですけれども、一緒になっているその元々の斐太工務店がどうなっているのかは、随時きちっと把握しているはずだと思うんですけれども、斐太工務店がですよ。どうなっているのか心配になるんです。そこをどういう風に江差町として押さえていらっしゃるかお聞きしたいと思います。

(議長)

「政策推進課長」

「政策推進課長」

小野寺議員、民都からお金が来たから改修したという部分の表現はですね、そういう事では決してございません。そこはですね政策も関係する水産も含めて一生懸命担当の部分で頑張ってそういう補助金を見つけて、そういう中で開陽丸の入館者の増を図るために、その前には別な形で船体の修復をしたし、管理棟の部分はそういう運搬や飲食も担える交流人口も増やしたり、観光振興を含めてですね、そういう目標を持ってそういう形で動いたということです。

ですからこれで終わりという事では当然ございませんので、ただ私が言いたいのは今の時点で全体像を港湾計画もそうですけれども、全体像をこういう形で持ってこようね、という部分まではまだ達しない部分もあるので、それは政策課題としてしっかり持った中でこれから議論されていく事だろうなあとこういう事になります。

(議長)

「町長」

「町長」

開陽丸の周辺の関係も少し私の方からも言わせて頂きたいと思います。おっしゃる通り、いつも議論で食い違いがあるのは、所謂全体の構想、全体の

計画を示しながら、例えば開陽丸の部分のパートの整備計画というそういう、それは確かに理想論なのですが。この間私もずっと企画だとか政策を担当して参りまして、港湾の所謂南埠頭の所のですよね、計画を立てるといのはとんでもない大変な作業。構想自体が大変だとか大変でないとかいう問題ではなくて、南埠頭を修景厚生港区にするとかを含めて、所謂賑わいの場をあそこで実現するという事になれば、経費の面、あるいは港湾の計画の変更だとか大変なそう簡単にですね、ただ簡単に絵を描けばいいという様なレベルの話ではないんです。

従って、今この一年か二年位、集中してやってきたのは、開陽丸の言ってみればあの辺の周辺ですね、それから鷗島、鷗島の所には昔二つの展望があったけど、今閉鎖されている。そういう来て頂けるお客さん方のニーズに答えられない様なエリアになっているものだから、そこを補完しながら開陽丸の入館料の検討もしながら、あの辺で賑わいを果たしていくと。

そういう所をとっておりますので、小野寺議員いつも御指摘があるようにですね、確かに全体計画を描きながら、開陽丸をどう描くかという問題は大事かと思いますが、なかなかそういう風には理想論の様な展開は、かなり難しいという事だけはぜひわかって頂きたいなという風に思っている訳です。

それからあの斐太の関係ですが、斐太が倒産するかどうかというのはあんまり私の頭の中には入った事はありません。

現在、例えばそういう経営状況がですね、斐太の経営状況も特に報告を求めている訳でもありませんし、今社長をやっている当人が所謂斐太出身の方ですので、その辺とは状況は逐次聞いておりますけれども、特に細かな経営状況の数字を取り寄せるとかそういう事はしてございません。

**(議長)**

はい。次に「横山議員」

**「横山議員」**

関連で風力の方の問題についてですね。

将来見通し、例えば撤去費等は見込めないだろうというのは今のあれから言っただけでその後どうなるかっていう事は、これから大変な大きな問題になっていく、設置されている場所ですから。

それから 51%の株主であるという事で、大変な大きな問題になっていくと思いますが、今現在ですね。例えばあそこ、あるメリット、江差町にとってのメリット、例えば固定資産税関係等による貢献というものはどの様になっているのでしょうか。確か、前には去年の分は終わったとかいう話も聞いていると思

いますけれども、ちょっと確認でお願い致します。

もう一点、これはトヨタ関連の件。町長が大変力を入れて例えばトヨタの部品工場の誘致、部品関連の誘致から始まって、色々やってこられて、もう6～7年経つんでしょうか。そしてその度に経費として大変なそろそろ積み上がってきている金額はそれなりに大きなものになっているんじゃないかなあと思います。

そういう中で、町長の得意の「選択の問題」としてもうそろそろ見通しをちゃんとつけてやるべきじゃないか。ただただ追いかけているのも、どうなのだろうか。その辺の見通しを町長からお願いしたいと思います。以上。

**(議長)**

「政策推進課長」

**「政策推進課長」**

トヨタ関連企業の方の関係、私の方から答弁申し上げます。

横山議員の6年程経つ訳ですけれども、議員の皆さんも行ったのが22年の4月に議員の皆さんも行ったと。その以前の交流も確かにあった訳ですが、実質的に物事が動いた部分というのは、22年の4月以降。言わば議員さんが行ってからだと思います。実質丸2年経つ訳です。

それで横山議員からそろそろ見通しをつけたらどうかという事なんです、一つにはこういった大手の企業さんとの付き合い含めてですね、これについては継続して参りたいというのが、これからも続くだろうと思います。

ただし、ここトヨタ関連企業だけを販路先に固定するという意味ではございませんので、その一つにトヨタ関連さんとの引き続き協議はしていきたいと思っております。その何かと言うと、執行方針や色々な場面で町長も言っている通り、言わば雇用の場を確保する分で色々な制度活用しながら、言わば加工製造業の何とか育成含めてですね、出来ないかと言う事で努力している訳でございます。

直近の部分とすれば、このトヨタ関連に限定して言いますと、町内の中で何とか、言わばこの小さな加工場でも出来ないかという事で水面下で色々努力してきた訳ですけれども、町内ではなかなか難しい面もございまして、外部の方の道南のある業者の力も借りながら、この江差町円の投資も含めてですね、そういった形で少し動き出せないかと。こういう事で今現在、取り進め作業中です。まだ具体化の話の部分まで行きませんが、この部分で何とか雇用の場が二人でも三人の所からでもスタート出来ればいいなど、こういう形で今内内的にそういう動き出しをしている現状にあるという事です。

(議長)

「町 長」

「町 長」

ウィンドパワーのメリットで固定資産税という事ですが、固定資産税も償却資産ということですから、毎年毎年償却されて下がっていくのですが、概ね現在 20,000 千円の課税額となっております。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

トヨタ関連の件についてもう少しつっこんで伺います。

平成 22 年度からという捉え方になっているのですか？以前の説明ではもっと前からの行ったり来たりの積み上げが今に繋がってきているという説明があったかと思えますから、その間の出張費一つ取っても、毎年何回かやる訳ですから。しかも何人もで行ってる訳ですから。大変な金額になってきているのではないかと思います。

そういう意味では大変貴重な町財政を使っているという認識を持ってやられているのかどうか。その辺は町長としてよく選択を考えて頂きたいと思えます。見通しがある事につっこんでいるのか。見通しのない事につっこんでいるのか。

今さっきの課長の方策では、あれはトヨタに当てはまる様な事業展開とは考えられませんね。もっと地元の実情に応じた開発関係をやっている、それだったらととてもとてもトヨタのああいう大きな企業相手ですけれども。相手のしたものにはならない、到底結びつく話ではない。

それから毎年、もう何年ですかね、行かれています中部国際空港へセントレアでの開催など。あれは空港、トヨタから出向している人ではないですかね。あそこのマネージメントをやっている人は。

空港にとっては珍しいイベントが来てくれる、これは有り難い事です。しかし、例えばそれも経費かかって行っているとするならば、江差からそういうお付き合いをしていく。そういう町の支出をしていくのは、どういう風に積み上がって成果を出していくのか。この辺りも選択の重要な要素だ、ファクターだと思います。

御返答をお願いします。

(議長)

「町 長」

「町 長」

横山議員のご質問をお聞きしていると、とにかく何もやらないでカタツムリの様にしていれば良いのではないのかという様な質問に聞こえるのでございます。

そう簡単にトヨタさんの会社もありますが、私共が一番相手として色々とお話をしているのは、「職員に昼食だとか提供する所」、「会社」、「職員の色々な日常用品を販売している生協関係」、その所をやっている訳ですから、トヨタそのものの会社を相手にしている訳ではありません。

従ってトヨタというと世界に冠たる会社な訳ですから。そことこういう小さな8,000人9,000人そここの町と話をしても相手にならないんじゃないのかと如何にも言わんばかりに私には聞こえますが。そういう事では無くて、少しなりとも一歩でも二歩でも前に出られる様なそういう所に来ていますし、それが公費の無駄だという風に思っています。

ぜひご理解をお願いしたいと思います。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

そういう認識でその事業をやってらっしゃるとしたら、ちょっとこれは濱谷町長が町長でいらっしゃる限りは意地でやるのか。見通しもどうなっているんだ。見通しもなくやるのは。

しかしこれね、あくまでもね、町の金を使ってやっている事なんですよ。単なる個人の思い入れ、あるいは世界の大企業のトヨタさん、企業との直接でなくてもそれから発生してきた問題ですからね。発生してきた展開、色々変わって、今そっちの給食会社の方の話にもなっていると、私は行って分かっていますけれども。まったく見通しをどのように掴んでやっているのか。単なるお中元、お歳暮、あるいはセントレア辺りでの展示の販売等、そういう単発で繋がっていただけでは、とてもとてもこちらの状況がそういう風になってないんですよ。

もっと地道に例えば、確かにあれですけど、今プラットの方で考えているあいう事業の様な事から進めていって、もっと地道な物を展開していく。そういう選択をすべきじゃないかなと思うので、よくよく自分の任期中いけば追い

かけて追いかけて、よく選択考えて下さい。町の税金を使っているという意識をきっちり持ってやって下さい。

(議長)

要望ですね？はい。

「町長」

意識の関係ですが、これは横山議員、公費を使ってという意識を持って、こういう事ですから、あなた達も同じです。どういう整理をしてきたのですか。今まで。

やっぱりトップセールスとして今までどこの自治体も含めて考えてみると、失敗もありますし、成功もありますよ。手をつけないで、カタツムリの様に閉じこもっていて展開出来る要素は何もない。いいですか？その上で今動いているのは、担当課もあんまり開かなかったんですけれども、地元の業者と函館の業者と手を携えて企業を地元法人、作る方向に今行っているんです。地元の人には誰も動きませんよ。地元の人。横山さん出して下さいよ。手を挙げて下さい。そういう道を開かなきゃならないのではないですか？私の任期中、トヨタと、交流して年に一回名古屋に行けばいいって話で私やっている立場ではありません。

(議長)

はい、横山議員の質問を終わります。「薄木議員」

「薄木議員」

一点程お伺いします。政策推進課というのは、一応予算を決めたら、年度内は予算内以外のものは、やらないという事はないですよ、課長。

と言うのはですね、今回ゴールデンウィークの時に日本ハムから江差井をやりませんかという御案内が来たのは御存じかと思います。この話を聞いて、大変素晴らしいものだと思って、江差町はどういう対応をするかなと思っていたら、商工会の方にお問い合わせをしたという筋なんですけれど、その経緯をお伺いしたい。

(議長)

「政策推進課長」

「政策推進課長」

日ハムの大会があった時…

**「薄木議員」**

いやいや、ゴールデンウィークに今、江差が海鮮丼を出店しませんかという案内が来ていたでしょう。

**「政策推進課長」**

江差海鮮丼をやってもらえませんかという話があつて、今江差の方には海鮮丼は無いのでという返答をしたという事ですか。ちょっとすみません。ちょっと暫時休憩。

**(議長)**

休憩してね、「薄木議員」、もう少し詳しく質問して下さい。

**「薄木議員」**

文書があるんですけどね。

**(議長)**

暫時休憩します。

(休 憩)

**(議長)**

暫時休憩を閉じ再開し、「政策推進課長」の答弁から入ります。

**「政策推進課長」**

出せないかという要請があつて、江差町的には海鮮丼は無いのですが、ニシン丼ぶりはあると。こういう事でお話をした所、ニシン丼ではなくて海鮮丼で出来ないかと、こういうやり取りがあつたという事です。

じゃあ商工会さんの方にこの海鮮丼の部分でですね、少しあたってもらえないかと、関係する飲食店含めてあたってもらえないかという事でフィードバックしたと。こういう経過になっているという事のみ、私の方からお答えできる範囲かなという風に思っています。

**(議長)**

はい。いいですか。二回目の質問して下さい。

**「薄木議員」**

今そういうのに予算は出せないのですかという風に聞いている。何もやめるとか何とかでは無い。

**(議長)**

質問はそれに対する予算とかもっと積極的に対応出来なかったのか。

**「薄木議員」**

違う違う。予算は出来ているけれど、それ以外のものにしたらどうなんだという事です。

**「政策推進課長」**

はい。わかりました。

**(議長)**

「政策推進課長」

**「政策推進課長」**

予算は予算として当然ありますけれども、こういう予算以外のもので、実は色んなこういう、この種のものも含めてですね。厚生労働省のパッケージ事業や実現事業、そういったものも含めてございますので、可能な部分はですね、対応出来る、可能なものは充分検討させて対応出来る範囲にあるという事です。

**(議長)**

はい。「薄木議員」

**「薄木議員」**

それは確かに江差町推進課には直接来てない文書ですね。役場のある方を通じての内容になっているから、正式じゃないのかも分かりませんが、私とすればやはり推進課はね、そういうイベントに対してのもっと柔らかい姿勢をもった方が良いのではないかという事を言いたいのです。

それは町長のいつも言っている意識の改革とはそこから来るのではないのか。予算があるからそれだけ使うのであれば、ただの公務員です。

あなた方はサービスを提供するという認識を持ったら、そういうものに対してもっともっと積極的にやっていただきたいと思うんです。

町長でしょうか。それで終わります。

**(議長)**

はい。「政策推進課長」

**「政策推進課長」**

おっしゃる通りで、柔軟にというよりも、積極的な部分で対応出来るものについてはですね、政策段階でも担当課に任せきりにならずに、うちの事も相談の中でうちの課内でも協議して出来るだけ対応出来る様にはしていきたいと。このように思っております。

**(議長)**

政策推進課の予算、並びに関連議案についての質問を終わります。